

はじめに

この「地域総合研究」誌は、今号で第8号を数えるに至った。創刊号は2001年7月に、松商学園短期大学総合研究所から発行された。A5版の小型で、現在の「松本大学地域総合研究所」の前身である「信州産業調査研究所」「松商学園短期大学総合研究所」における事業やその成果を歴史的に概観した。

2002年4月松本大学創設に伴い、研究活動の成果を公表するもう一つの定期刊行物である「松商短大論叢」を、「松本大学研究紀要」に改称した。同時にA5版からB5版へサイズを変えた。そこで二つの刊行物に違いを持たせようと、「地域総合研究」は第二号から現在のA4版に改めた。

形式面での刷新だけではなく、内容面でも「研究論文」に加え教育改革への取組を示すものとして「各種GP等への申請書」を採否に関わらず公表（第7号より）することとした。また、「地域総合研究センター活動報告」に加え、新たに「松本大学アニュアルレポート」を掲載（第3号より）するようになった。これにより現在の「地域総合研究」誌は、①研究員の研究報告（論文・研究ノート等）、②GP等大学教育改革に関する申請書の公表、③地域総合研究センター活動報告、④松本大学アニュアルレポート、の4部構成となっている。

また、アニュアルレポートも第6号からは、各委員会それぞれに一年間の実績と活動から明らかになった課題を報告するようになっており、名実ともに自己点検・評価を実施する際の基礎データを集積し、それを公表する場となっている。特に第4号までは300頁弱であったのが、第5号からは450頁を越えるようになってきている。このページ数の飛躍的な増加は、教員の充実や各種委員会活動の活発化など、松本大学や松本大学松商短期大学部のアクティビティの高まりに比例しており、大変喜ばしいことである。しかし厚いがかためにかなり重く、紙質の検討とともにそろそろ分冊も考える時期かも知れない。

特色GPを獲得していることもあり、最近ではキャリア・センターが独自の活動報告を冊子にまとめており、アニュアルレポートにおけるキャリアセンター報告はそのダイジェスト版としての様相を呈している。大学全体として各委員会が独自の報告書を発行する方向を目指すのかどうかは、経費の面を含めこれからの検討課題になるであろう。

分冊の件を考えれば、例えば①教育論、教育実践報告などの研究報告の他に、②FD活動への取組、③学生支援や教育に関する各種GPの申請書など、教育、授業改善に関する内容を中心テーマとした『地域連携と大学教育』（仮称）のような研究誌を新たに発刊するのも一つの方向かも知れない。この時もう一方の『地域総合研究』誌は、①地域共同研究や地域に関連した内容などテーマを絞った研究報告、②地域総合研究センターの活動報告、③アニュアルレポート、といった内容が考えられよう。

教職員数も増え内容が豊富になっただけではなく、雑誌自体も分厚くなり過ぎてしまっているため、今回の第8号発行を契機に、『地域研究』と『大学教育』の二つのパートに分けるという案を検討してみたい。

2008年6月

学長代行・地域総合研究センター長

住吉 廣行